

団体名	湖南省障がい児者団体連絡協議会	湖南省身体障害者更生会	湖南省視覚障害者福祉協会	湖南省聴覚障害者協会
1 団体の活動において「新たに取組もう」と思っていることや「困っていること」	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化・後継者不足の農業を支える「農福連携」事業(鶏卵)をスタートしたところで、採算性を確保し、果樹、キノコ栽培などに拡大したい。 ・29年度から市体育協会に障がい者スポーツ部会が設置され、障がいのある人・ない人が共に楽しむスポーツ事業の展開を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな入会者が少なく、会員が減少。 ・若い人が参加してくれない。 ・行事の際、参加者の交通手段の確保が大変困難(特に日曜日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には94名の手帳保持者(視覚障がい者)がいるが、会員は15名でほとんどが高齢者。市内の視覚障がい者の把握ができず会員募集の方策に苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者はコミュニケーションがうまくいかないため、社会参加がしにくいので、手話言語条例の制定を通じて、理解と社会改革への道筋を作っていきたい。
2 日常生活を送るうえで困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・グループホームが少ない。 ・グループホームの開設場所等について、法的規制により条件が厳しく実現しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障がい者が年をとっても生活しやすい環境を作してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日は移動支援、同行支援が受けられず、行事への参加を断念している(事業所の規制により)。 ・石部駅の階段などが危険で、対策をしてほしい。 ・コミュニティバスの主要駅で音声アナウンスがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を送る上で、地域の人や家族との相互理解がしにくい。 ・例えば、夏祭りなど地域行事においても、役員が変われば配慮が変わる(くじの当たり番号の標示などないと楽しめない) ・聴覚障がい者の高齢化が進んでいる。聴覚障がい者同士が集まって、いろいろな取組を楽しめるサロン等を設けてほしい(既存の老人クラブなどでは楽しめない)
3 就労等をするうえで困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> ・就労訓練の場が近くにない(通いが困難) ・就労が継続しにくい(学齢期から一貫した個別の取組みが必要) ・労政部門の取組みが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障がい者の就労がまったくない(60-65歳間の収入保障を) ・シルバー人材センターに高齢障がい者の枠などを。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤方法がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者が就労できる会社が少ない。 ・耳が聞こえないことで職場が限られてくる。 ・職場での聴覚障がい者への正しい理解が広がらない。
4 スポーツ・文化活動などの余暇活動をするうえで困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の理解の不足。 ・保護者の気持ちをほぐすような見守りが大切。 ・モデル地域での住民理解づくりなどができれば。 ・当事者に対して、できたことへの誉めの言葉を(本人の意欲や力の発揮につながる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の企画の際には、参加者の送迎等の手段も一緒に考えないと参加者が集まらない。 ・若い身体障がい者の参加が全くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日は移動支援が受けられず、参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳の派遣がしにくいところが多い。 ・余暇活動でコミュニケーションの壁が大きい。
5 子どもの発達支援や教育に関して困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を決めるためのモデルが必要。 ・進路を決めるための、保護者にも理解できる客観的なデータがほしい。 ・保護者が具体的に想定できるようなモデルがあれば、先行きが見えない不安が解消される。 	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい児が地域の行事に参加できる環境がまだまだ十分でない(障がい理解が不十分のため)
6 その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの計画的育成が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設(庁舎や駅)の整備(バリアフリー)について、計画段階より障がい者を入れて進めてほしい。 ・団体運営の補助金について、実態に即した配慮等を頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石部駅の改修に際して、事前に話し合う場を設けてほしい。 ・つばさプラン作成にあたっては視覚障がい者にもやさしい表現をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者向けの災害時のマニュアルを作成してほしい。

団体名	湖南省手をつなぐ親の会	甲賀地域精神障害者家族会(のぞみ会)	湖南省ことばの教室親の会	そうさん教室親の会
1 団体の活動において「新たに取り組もう」と思っていることや「困っていること」	<ul style="list-style-type: none"> 親世代(と本人も)高齢となり、思うように活動できず、将来が不安。 若い世代の参加が少なく、会自体の将来への懸念がある。 若い世代の参加推奨の充実を。 親の世代によってサービスに対する感覚の違いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の会員が多くなっており、子どもがどうなるかが心配している。 精神障がい者は受け皿が特に少ない。 三障がい一元化と言われているがまだまだ不十分で、精神障がいは三障がいのなかでも一番苦しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 通級生は増えているが、親の会に入会される方は3分の1程度であり、行事を企画しても人が集まりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育中ではなく、年に数回、親のために学習会の機会を設けて欲しい。 親の会の活動の催しで、楽しさ、安全性、予算、アレルギーなどのことを考えると、みんなが喜んで参加してもらえるような環境づくりができずに困っている。 療育中や親の会活動時に、園児以外の兄弟の託児があれば。
2 日常生活を送るうえで困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害者への理解が十分でなく、外出しにくい(外見で分かりにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 障害基礎年金だけで子どものおこづかいや医療費などを賄うのは厳しい。 特に医療費は、精神科しか助成されないが、薬の副作用などに関連して別の診療科も受診し高額となる。他自治体の例のように助成してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 草津線やバスの本数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 石部駅が不便。 障がい者ということだけで、ご近所からの接し方が変えられるなどする。 歩道のバリアフリー化を。 一時保育を全ての園で実施してほしい。
3 就労等をするうえで困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> どうしても作業所や福祉施設のみ。まずは一般就労への道ができる限りあってほしい。 作業所も定員がいっぱいのため、希望する場所や仕事に就くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般就労に関しては終日勤務は厳しい。 午前中だけ働くことは可能でも、1日通して働くことは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今のことばの教室親の会員世代では見通しがまだ持てない。 障がい者雇用を企業にもしっかりと伝えてほしい(対応やどのような点で難しいのか、特性など) 	<ul style="list-style-type: none"> 未就学児童の段階だが、湖南省での障がい者の就労先の企業等について知っておきたい。 病児保育の拡大を。
4 スポーツ・文化活動などの余暇活動をするうえで困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の利用できる場所が少ない。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 習い事の先生や地域での活動、スポ少など、特性のある子の対応や関わりをどこまで求めてもよいのかわからない。 スポ少での指導者研修の中に「特性のある子」のことについて知ってもらう機会を設けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの運動能力を伸ばすことに特化した場がほしい(感覚統合の教室など)
5 子どもの発達支援や教育に関して困っていること(現状や課題)(障がいのある人及びその家族の声)	<ul style="list-style-type: none"> 養護学校へ通っている場合、湖南省の発達支援システムから離れてしまうため(県立の養護学校のため)取り残されてしまう。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等にも特別支援に対する啓発を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする子どもが増える中で、養護学校や支援学級の先生、療育教室の先生が少なく、手薄さを感じる時がある。 普通級の教職員の方々の発達障がいの子たちについての知識が乏しい。 養護学校の設備の充実。 小学校の放課後保育の充実。 子どもが小学生以上であっても、そうさん教室の学習会のような話し合いの場があればよいと思う。 保育園や幼稚園の先生にも(進級に係る判断する立場として)養護学校や支援級とはどのようなところかを見て実際に確認してほしい。
6 その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> 重症心身障がい者通所施設整備(平成31年開所予定)にあたっては、利用者が使いやすいものにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当事者もその家族も、内に閉じこもる人が多い。また、重症化するまで黙っているケースもある。 精神障害者手帳を持つメリットがほとんどない。 	-	-